

政務活動費 活動実績報告書

件名	矢部川流域の治水利水の現状について
使途	① 調査研究費 2 研修費 5 要請・陳情活動費
金額	7, 200 円（車借上げ料及び会場使用料の人頭割）
期日	令和7年7月14日（月）
場所	八女市内（黒木斎場～日向神ダム事務所～花宗用水組合～山下地区排水機場）
目的	第1期生議員研修として、管内の現況と課題調査
報告者	八女市議会議員 原田英雄
参加者	原田英雄、古賀邦彦、小山和也、久間寿紀、花下主茂、水町典子、坂本治郎
概要	1 黒木斎場 （1）施設概要 建設年度：昭和46年度 稼働開始：昭和47年4月 年間利用件数：220件 維持管理費：16,419千円 1件あたり経費：74,635円 その他：昨年度従業員の熱中症防止のため新たに空調付きのプレハブを増築。 （2）感想 施設の一部はリニューアルしてあるが、経過年数相当に老朽化しており、早急な整備が必要だと感じた。特に、待合室で待つ遺族の心情を察すると、気持ちよく過ごせるよう早期の環境整備が望ましい。 現在、八女西部でも施設整備の検討がされているとのことであるが、八女市としても効率的かつ機能的な施設整備や配置をするよう早期の方針決定が必要である。 2 日向神ダム （1）施設概要 稼働開始：昭和37年4月 構造：重力式コンクリートダム 目的：多目的ダム（利水、治水、発電）

総貯水量：2, 790万 m^3

有効貯水量：2, 390万 m^3

調整後流量：350 m^3/sec

流域面積：84.3 km^2

発電所：大淵、木屋、新矢部川の3発電所により最大15,000KWを発電

管理事務所員：5名（6名にて施設運用従事）

（2）建設経緯

昭和28年の大水害を契機に矢部川流域の治水を主目的として築造された。同時に下流の11,000haの農業用水確保のための利水機能とともに、増加する電力需要に対応するため関連導水管やダム等発電施設を併設した多目的ダムである。

（3）感想

平成24年7月の九州北部災害においては、計画洪水量毎秒940 m^3 を超える毎秒1,005 m^3 が流入したが、この内毎秒655 m^3 をダムに貯留することにより下流河川の水位を提言させたとの説明を受けた。当時、農業振興課長として災害対策に従事していた私は、八女市でも堤防決壊の寸前であり大洪水と背中合わせの状態であったことを改めて思い出した。

特に近年の異常気象は著しく、豪雨や干ばつなどの自然災害は従前の常識を超越しており、改めて防災の重要性を痛感した。しかしながら、質疑において、建設後相当期間が経過し老朽化した日向神ダムの今後については、具体的な方針説明はなく一抹の不安が残った。

日向神ダムの下流に多くの市民が生活する八女市にとって、その維持管理は極めて重要であり、今後ともダム事務所及び県の動向について適宜情報収集が必要と感じた。

3 花宗用水組合（農業用水施設）

（1）施設概要

矢部川流域の広大な農地に対し流域面積が狭いため、藩政時代から久留米藩（右岸側）と柳川藩（左岸側）が自領の用水を確保するべく上流に向かって廻水路や堰などを順次築造してきた歴史的な建造物である。

（2）感想

農業振興課長時代には、24年の災害復旧において施設管理者の各組合と協議した経過があり、現在は立派に機能しており改めて水利施設の重要性を認識した。

幕藩時代の、1滴の水もムダにしない、相手方には絶対に流さない両藩の並々ならぬかんがい用水への想いが感じられる貴重な施設である。歴史的産業文化遺産と言ってもいい貴重な水利施設であるが、その維持管理には未だ課題も多い。例えば、八女市は柳川土木組合の構成員ではないが、旧黒木町と旧立花町に廻水路等の施設があるため一部負担金を支出しているにも関わらず組合においては維持修繕が実施されず、やむを得ず八女市で整備工事を施工することも多い。長い歴史慣行により現状となっているため、その変更は簡単ではないが、将来的には負担の在り方を精査し適切な維持管理ができるよう取り組まなければならない。

尚、今回の視察に際し花宗用水組合においては永久保存版ともいえるような資料を準備いただき、また懇切丁寧な現地案内をしていただき、この場をお借りして改めて心より感謝申し上げます。

4 立花町山下地区排水機場

	(1) 施設概要（事業主体：福岡県） ① 樋門の改築、増築 ② 排水機場の整備（5 m³/S） ③ 放水路の整備（最大11.9 m³を矢部川へ放水） (2) 建設経緯 平成24年7月九州北部豪雨の出水により矢部川の水位が上昇し流入河川である白木川、大倉谷川への逆流及び排水不良となり、床上62戸、床下24戸の浸水被害が発生した。再度の災害防止を図るため、県により整備が行なわれたもの。 (3) 感想 市役所立花支所より説明を受けたが、警報等が出る度に排水機場の起動準備のため待機しているとのことで改めて感謝致します。私自身も現職時代に当該地区の災害復旧に従事した経験もあり、24年以後も被災した現場に環境課長として廃棄物処理のため訪れており、地元の皆さんの期待は大変大きいと感じています。現状から考えられる施工方法により排水施設整備が行なわれ一安心かと思うが、矢部川の水位が最高位に上がった場合は全て排水するのは難しいと思われます。引き続き豪雨時には十分な警戒が必要であり、地区防災計画に基づく避難等により命を守る行動が大切だと感じた。
所感	今回の第1期生議員研修は、矢部川流域の治水利水の現状に加え、直近の課題となっている斎場について、現地調査を行なった。特に異常気象が常態化している昨今、防災や利水の観点から矢部川水系を上流から下流まで現地の状況を詳しく見聞できたのは大変意義深く、今後の議員活動に資することができると推察します。今回の研修成果を活かし、より良い八女市づくりに邁進する所存です。 東原技研、日向神ダム事務所、花宗用水組合及び八女市関係各課の皆様には、ご多忙中にも関わらず現地までおいでいただき、また懇切丁寧にご説明いただき、改めて深く感謝申し上げます。